

デジタルアーカイブ学会 シンポジウム
「博物館デジタルアーカイブの現在地（第3回：コモンズ編）」

日時：2025（令和7）年3月19日（水）19:00-21:00

場所：オンライン開催

**「デジタル・コモンズの進化 収蔵品検索から
事典へ」**

佐々木秀彦
(アーツカウンシル東京)

自己紹介

1968年東京都台東区生まれ、千葉県柏市育ち

アーツカウンシル東京企画部企画課長

専門は文化施設論、文化資源論

江戸東京博物館、江戸東京たてもの園、東京都美術館の学芸員を経て現職。所属する東京都歴史文化財団の経営企画、新規事業立ち上げに従事

国や自治体の文化施策、文化施設運営にソーシャル・キュレーションの視点で関わる

著書『コミュニティ・ミュージアムへ』（岩波書店、2013年）『文化的コモンズ』（みすず書房、2024年）

文化審議会文化施設部会博物館ワーキンググループ委員、柏市立図書館協議会会長など



公開から 活用へ

○所蔵資料のデジタルアーカイブ化は必須
所蔵資料のデジタル公開は、公共機関としての責務。改正博物館法の事業に記載。

○公開すれば活用されるのか？

- ・収蔵品データベースの検索の前提は、探したいものを知っていること。一定の知識が必要。
- ・Googleなみのあいまい検索は可能か、あるいは妥当か。

活用を促す ための工夫

○ジャパンサーチの場合

「地域から探す」、「季節から探す」、
「時代から探す」、「人物を調べる」、
「文化・風習を知る」、「地図で探す」

○デジタル地域事典

・八潮の歴史文化ナビ『れきナビーやしお
歴史事典』八潮市立資料館

<http://yashio-rekinavi.com/rekinavi/index.php?title>

未知を知る
ための手が
かり

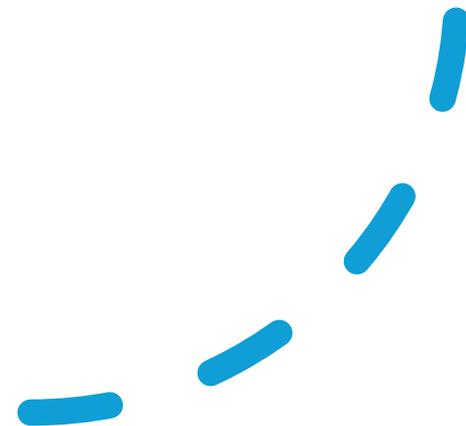
○事典

テーマ別配列、分野別索引

例) 『江戸東京学事典』 (三省堂)、
『生活学事典』 (TBSブリタニカ)

○年表

○地図・地名



対象とする 情報の拡大

○収蔵品（資料）から事業の総体へ

展示 → 解説文、パネル（図表等）、図録

教育普及 → 解説シート、ジュニアガイド、教材

広報 → 広報誌、外部への寄稿

研究 → 紀要、報告書、論文・書籍

○地域の諸機関とのデータ連携

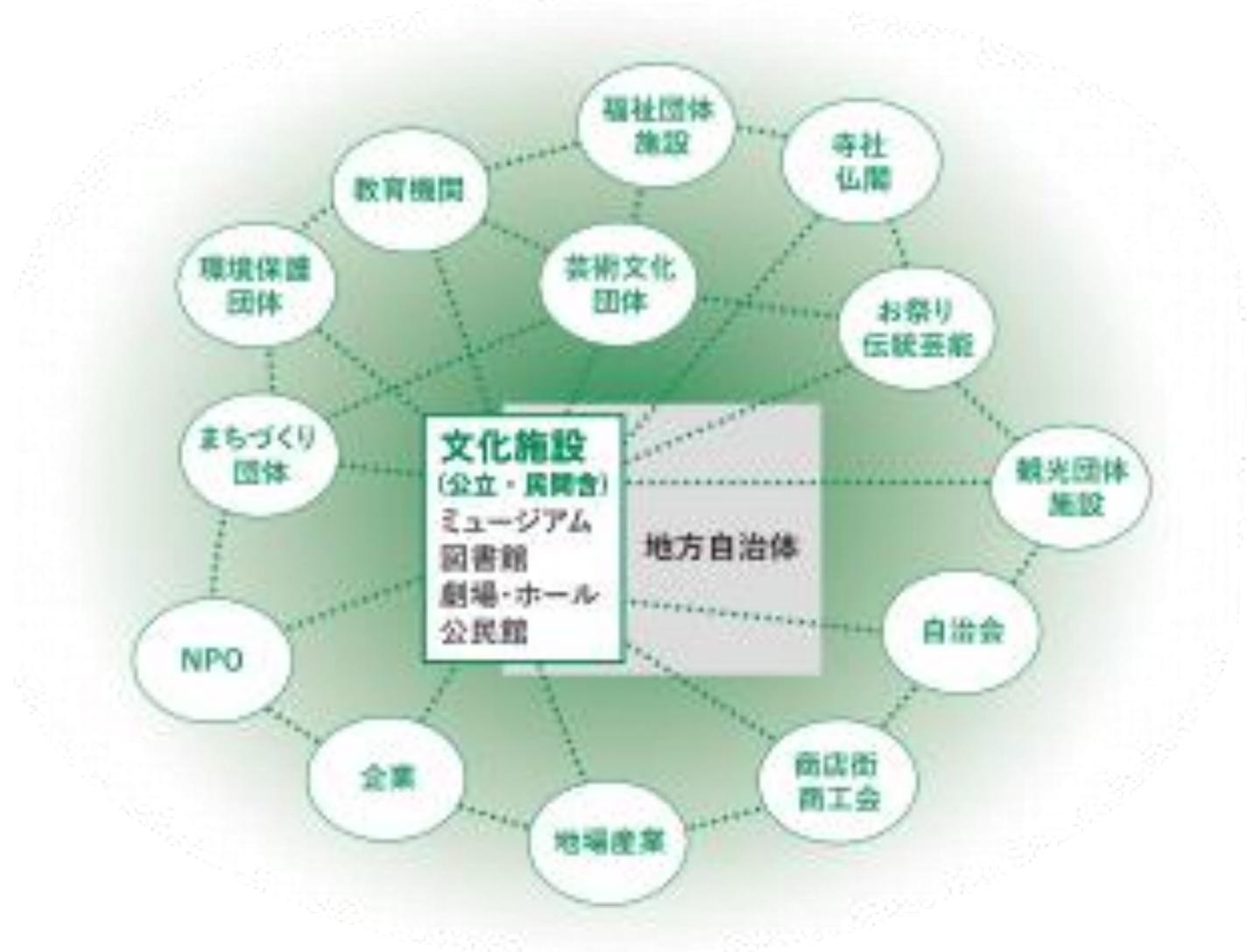
MALUTICKS連携「信州 知の連携フォーラム」

ミッションステートメントより

博物館（Museum）、アーカイブ（Archive）、図書館（Library）大学（University）、劇場ホール（Theater）、地元企業（Industry）、地域コミュニティ（Community）、公民館（Kominkan）学校（School）

文化的コモンズとは

- 地域の共同体の誰もが自由に参加できる入会地のような文化的営みの総体
- 財団法人地域創造（2014年）『災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究—文化的コモンズの形成に向けて』の挿図をもとに作成



事典型アーカイブの構築

○資料検索 → 主題配列・事項索引
分類の復権、総合的・横断的な事典型アーカイブの構築

ミュージアムの文化資源情報の基盤に
→ もっとも網羅的で利用される
(展示をしのぐ)

○デジタルアーカイブの企画構成 (デジタル・キュレーション)

デジタル・キュレーター (デジタルコンテンツ担当学芸員) の必要性

参画の促進

○活用から参画へ

- ・派生版ウィキペディアタウン

<https://www.libraryfair.jp/forum/2024/1292>

- ・みんなで翻刻

<https://honkoku.org>

○デジタル・コモンズの持続と発展

「コモンズ」は当事者の価値共有と自治によって持続